

# 第13回 国際日本学シンポジウム

主催：お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター

共催：特別経費「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プログラム

科学研究費補助金（基盤研究B）「身分感覚の比較史的研究」（研究代表者 岸本美緒）

## 感覚・文学・美術の国際日本学

平成23(2011)年7月9日(土)～10日(日)

【使用言語：日本語、資料代500円】

7月9日(土)共通講義棟2号館101号室

### 挨拶

羽入佐和子（お茶の水女子大学長）

### セッションI (13:00～17:00)

#### テーマ：文学のなかに身分感覚を読み解く

「身分社会」といえば、人々の自由な行為を押さえつける、堅い枠のような法的身分制度が思い浮かべられるかもしれないが、その身分制度が力を保っているのは、その社会に生きる人々が、自らのふるまいや言葉遣いを通じて、絶えず他人との間の身分関係を紡ぎだしているからにほかならない。本シンポジウムでは、世界史上のいくつかの事例をとりあげ、文学のなかに身分感覚を読み解く方法を考えてみたい。

司会 頼住 光子（お茶の水女子大学大学院教授）

### 研究発表

翁 育瑄（台湾・東海大学歴史学系助理教授） 「唐代筆記小説から見た主僕関係について」

神田 由築（お茶の水女子大学大学院准教授） 「浄瑠璃に見る近世日本の身分感覚」

安成 英樹（お茶の水女子大学大学院准教授） 「アンシャン・レジム期フランスの文学に見る身分感覚」

岸本 美緒（お茶の水女子大学大学院教授） 「『岐路灯』にみる清代中国の身分感覚」

交流会（17:30～19:00）ふるってご参加下さい。（無料）

7月10日(日)共通講義棟2号館101号室

### セッションII

#### テーマ：ファン・ゴッホと日本—ガシェ芳名録紹介本をめぐって—

ファン・ゴッホの友人であり、彼の作品の蒐集家でもあった医師ガシェの芳名録が再発見されたことを機に、このシンポジウムではこの芳名録をめぐって、ゴッホと日本の関係に新たな光を当てる。ゴッホにとっての日本とは何だったのかという問題に立ち戻りながら、特に20世紀の日本文化におけるゴッホ作品の位置づけと受容について、国際的、比較研究的な視点から見ていく。

司会 秋山 光文（お茶の水女子大学大学院教授）

ロール・シュワルツ＝アレナレス（お茶の水女子大学大学院准教授）

### ■午前の部（10:30～12:00）

### 公開講演会

尾本 圭子（フランス・ギメ美術館館長付顧問） 「ガシェ家芳名録の資料的意義について」

### ■午後の部（13:00～18:00）

### 研究発表

木下 長宏（元横浜国立大学教授） 「ファン・ゴッホは浮世絵からなにを学んだか」

田中 淳（東京文化財研究所企画情報部長） 「日本におけるゴッホ受容—1912年を中心に」

稲賀 繁美（国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学教授） 「宮澤賢治とファン・ゴッホ」

圀府寺 司（大阪大学大学院教授）

「ファン・ゴッホに献じられたユートピア—大石輝一の「アート・ガーデン」(兵庫県三田市広野)—」

### パネルディスカッション

司会 天野 知香（お茶の水女子大学大学院教授）

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号（東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車徒歩5分 正門(東門)からお入り下さい。）

お問い合わせ（毎金曜日 10～17時）

比較日本学教育研究センター Tel. 03-5978-5504 E-mail ccjs@cc.ocha.ac.jp

ホームページ <http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/>